

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000838		
法人名	(有)優春		
事業所名	グループホーム くれよん		
所在地	小樽市長橋5丁目13番4号		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年10月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jisyosyoCd=0172000838-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和 5年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームくれよんは、ご利用者様一人一人の個性を大切に生活リハビリや体操等を取り入れ、全身機能維持または低下させないよう努めております。今年度より、コロナ禍を乗り越え、外出行事等少人数での対応で四季折々の雰囲気を感じて頂いております。また、ご本人・ご家族様の希望があった場合、主治医・ご家族・職員と相談しながら『最期』の時まで馴染みのあるグループホームくれよんで過ごして頂けるよう、安心・安楽に『その時』まで支援させて頂いております。理念に沿って、『一人一人の個性を生かし笑顔の絶えない明るくゆったりとして時を一緒に共有し地域の皆様と共に相手を敬う気持ちを大切にし暖かい本当の家庭』を職員が心を揃え目指しているホームです。※Instagram・ホームページもございますので、是非(有)優春 グループホームくれよんの雰囲気をご覧ください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR小樽駅から車で10分程の自然豊かな住宅街にあり、周辺には系列の事業所が点在し、お互いに協力体制にあります。四季の移り変わりが身近に感じられる環境にありますが、屋内においても季節に因んだ飾り付けや食事などで季節感を大事にしています。コロナ禍以前は地域住民や家族の参加を得ての系列合同の夏祭りを開催していましたが、今回は系列事業所のみで行い、潮太鼓の披露では地域から見物に訪れています。運営推進会議や面会も、コロナ禍以前の状態に近くなっています。今年度のユニット合同のケア目標は「おもてなし」と定め、職員はさらなる利用者への寄り添いに努め、満足度が高められる支援に取り組んでいる「グループホームくれよん」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、利用者とかかわりの中で常に理念を思い浮かべながら、理解と協力が得られるよう、務めている。月一回のミーティングでは理念について話し合い、また、各ユニット毎に毎年目標を立て実践している	地域の中で利用者が穏やかに過ごせる環境作りを理念にしためています。代表者の直筆による理念を玄関に掲示し、内・外に基本姿勢を示しています。ユニット合同の年度目標も「おもてなし」とし、それぞれ実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度より新型コロナウイルス緩和・第5類に伴い、地域の皆様との交流を再開している。利用者様・地域の皆さまと繋がりが持てるよう、8月は、利用者様のご家族による演奏会・9月は夏祭りにて潮太鼓による演奏をして頂きました。4年前の状況に戻れるよう努力している。	地域との繋がりを大事にし、代表者や法人役員は町内会役員や年齢制限のない老人クラブに加入しており、資源回収に協力しています。系列事業所合同の夏祭りには潮太鼓の披露があり、近所の方々が見物に訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には高齢者が多い為、代表者が町内の役員に選ばれたり、運営推進会議では町内民生委員も協力してくれているので、ホームの現状を報告し協力体制の強化に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、場を設けて、運営推進委員会を行いホームの状況等報告し、意見・情報を基にサービス向上を目指している。	会議は現在、書面から対面で開催しています。夏祭りを利用しての会議では、現況報告後に議題に応じた資料をもとに推進委員から意見や要望を聞き取り、また、地域の課題も検討するなど双方向の会議になっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議では、代表が役員をしているので連絡は密にとっており管理者を含め積極的に関係性を築いている。また、市役所の担当者の方とも定期的に連絡を取り合っている。	担当部署とは、代表者始め各役職者が課題解決に向けて関わりを持っています。事故報告書は、管理者が出向いて担当職員に説明をしています。地域包括支援センターからは運営推進会議時に情報や意見等が得られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正対策委員会にて検討し、全職員で共有、話し合いにより身体拘束になっているサービスがないか確認している。又、サービスを実施する際には、拘束につながらないかを考えながら実施している。玄関の施錠は夜間のみとしている。	身体拘束廃止については、運営推進会議時に適正化委員会と研修会を開催しており、職員の共通認識を図っています。理念やケア目標は利用者主体を謳っており、実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等適正化が義務付けられ、身体拘束等適正対策委員会で虐待に繋がるような不適切なケアについて考え、その内容をミーティングでの勉強会を通じて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや毎朝の申し送りで職員に話す機会を作っている。現在成年後見制度を活用している利用者様がいるため、わからないことは後見人と話し合う機会を作っている。大体月に1回は電話連絡をして近況報告や相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、料金・内容の変更時には再契約、リスク・事故対応を分かりやすく説明し、理解・納得した上で同意を得るようにしている。退居、契約解除に至るまで、分かりやすく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の態度や言葉から思いを察するよう努力している。ミーティングや申し送りで話し合い利用者様本意の運営を心掛けている。	家族からは活動や面会の自粛に対して理解が得られており、職員は毎月の事業所便りやその時々で写真や手紙を送付して利用者の日常を伝えていきます。さらに電話や面会時にはリアルタイムの話題が伝えられています。関わりの中や家族アンケートから意見等の把握に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度はコロナ感染対策でミーティングは感染状況を確認しながら1~2か月に1回ユニット別で行っている。勤務時にも職員の意見を聞くようにしている。また、職員の個人面談を実施し、思いを聞き職員の定着に向けた取り組みを心掛けている	代表者は購入した食材や日用品を届けに來たり、定期的な個人面談等で常に事業所を訪れています。管理者は新人職員の意見や提案も積極的に取り入れ、また、若い職員の身だしなみも法人として理解を示し、家族に内容の説明をしています。職員アンケートも実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し、勤務時間や条件の整備など柔軟に対応している。各自がやりがいを持って仕事ができるよう良い職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年同様、今年度もコロナ感染対策の為、内部研修が主となっている。利用者介護中の対応や身体介護で基本を基にできているか、その場で助言や指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会や他ホームとの相互研修を行っていたが、今年もコロナ感染対策のため中止となったため職員間で動画や資料等で学習する取り組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人家族からの要望や不安、困っていることを話し合ったり、入所前にホームを見学していただき、安心して入居できるように努めている。今年度も感染対策の為、玄関からの見学や写真で見てもらおうよう対応する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況をよく話し合い、今何が困っているか今までのサービス状況も踏まえて話を聞き、その上でどのようなサービスができるかを話し合い、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の相談を受けるようにしている。そのうえで入居が必要と判断した入居者さんに対し今年度も写真でホーム内の様子を見て頂くよう対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	密集や密接しないよう配慮しながら生活リハビリや雰囲気作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策の面会の制限をさせて頂いたため、毎月のくれよんだよりに利用者様の様子を載せたり、定期的に写真やお手紙を送っている。変わりのある場合には電話連絡をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度より、2名まで15分間・マスク着用・飲食禁止と制限させて頂き、居室での面会をして頂いておりますので、大切なご家族・ご友人との関係が途切れないように対応しております。遠方のご家族・ご高齢のご家族もいらっしゃるため、定期的に電話連絡し近況報告させて頂いております。	コロナ禍以前の生活に戻りつつあり、制限付きで居室での面会や家族支援で法要に参列しています。馴染みの店での買い物、外来受診では車窓から見慣れた風景を眺めています。昔の写真を一緒に見て、利用者と思い出を共有しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように常に目配り・気配りし、利用者間のトラブルを避け、職員が仲を取り持ち感染対策をとりながら、トランプや歌で共有の時間が過ごせるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談して頂けるよう、取り組んでいる。退居時の状況に合わせてどのような環境サービスが、必要か共に考え支援している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどのような生活を望んでいるのかを日々の関わりの中で把握するよう努めている。困難と思われるときは家族と相談し、本人の思いに添った支援をしている。	職員は利用者の状況を見極め、意思疎通がスムーズにできるか、推察や洞察力が必要ななど五感を働かせ、時には家族の力も借りながら思いの把握に取り組んでいます。積み重ねてきた個別の記録も重要ポイントになっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族から生活の様子、趣味などを聞き、安心して生活が送れるよう支援している。入居後も本人やご家族が来訪されたときに少しずつ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックにて健康管理に努め、1日の暮らし方を理解すると共に、食事や排せつの時間、生活習慣などその人らしい生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活での気付きや変化を毎日の申し送りでのカンファレンスやモニタリングでの課題となることをスタッフ、家族と相談し、3ヶ月ごとに介護計画の見直しと作成を行っている。	ケアプラン作成時は利用者の願いや家族の思いを核にして、現プランと介護記録をもとに職員全員で評価や課題を分析し、現況に沿った支援目標を定めています。ケアプランの実践は、介護記録で確認できます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、日常の職員の気付きや状態の変化まで毎日申し送りで話し合い、常に情報を共有しながらケアプランの評価や立案に活かしている。又期間内に変化が生じた場合には実情に応じたプランの見直しを行い柔軟に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズや変化に柔軟に対応し、本人・ご家族の要望を常に聞き入れ職員同士で話し合い多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力のもと消防訓練、家族、友人、ボランティア関係の方の参加の夏祭りや運動会を行い安全で豊かな暮らしができるよう支援していたので今年度より再開に向けて一つずつ実行している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿った、かかりつけ医の受診をしたり、複数の医療機関と連携を取り支援している。通院が困難な利用者様はご家族と相談し、往診が可能な病院に変更してもらっている	受診する医療機関は、利用者や家族の意向を受け入れ支援しています。入居時に協力医による往診体制や24時間連携の看護師による健康チェックが定期的に行われていることを説明しています。受診結果は、家族と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変に気付いた時はホームの看護師に報告し主治医との連絡を取りながら適切な受診通院をいつでも行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、ADLの低下を最小限にするため、早期退院に向けて密に情報交換している。病院からホームへ戻ってからの生活もスムーズに行えるように病院関係者と相談しながら連携を図っている。ご家族の思いを共有し安心して最後を迎えられるよう対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人の思いを尊重し、終末期に対する方針を十分話し合ったうえで、ご家族、医師、看護師と連携を取り指示を仰ぎ支援に取り組んでいる。ホームで出来る対応についてご家族に説明し、メリットやリスクについても説明している。	入居時に事業所として出来ること出来ないこと等を説明して、重篤時での意向を確認しています。ケアカンファレンスやサービス担当者会議を経て、利用者の思いに沿えるよう医療従事者や家族と連携して最終支援に臨んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時に急変・事故発生時のマニュアルの確認・勉強するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日にホームの避難訓練を行い実際の火災に備えて訓練を行う他、年2回の消防との避難訓練を地域の方々とも協力しながら行っている。災害に備えて飲食物、発電機等の備品の備えをしている。今年度も感染対策のため密にならないよう対応をとり行う。	年2回消防署の指導の下、水害、地震、停電を含む日中・夜間を想定した避難訓練を計画し、1回目終了しています。訓練月以外は定期的に安全に避難できる方法の確認や災害時の必需品を随時用意して非常時に備えています。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接し方に気を付けプライドを傷つけないように対応している。特に入浴やトイレ介助時には誘導の仕方や羞恥心に配慮し人格の尊厳に努めている。	利用者にはケア目標でもある「おもてなし」の心を持って心身に寄り添っています。トイレ使用時はドアを閉め、タオルを掛け、また、入浴は同性介助の要望を受けとめて支援しています。気になる言動がある時には職員間で注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いが表出しやすいよう声掛けや、選択しやすいような場面作りをし、答えを急がず自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1人1人の生活リズムを観察し、その人らしく過ごせるよう個性を大切に、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季や好みに合わせ服装と化粧品に気を付け、おしゃれが出来るよう支援している。起床時には、自分で服装を選んでいる方もいる。ヘアカットも美容師だった職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、調理、味付け、盛り付けを職員と共に行い、片付けも行い達成感を感じて頂く。利用者に合わせて味付けを変え提供している	食事作りは畑の野菜を活用し、利用者の食欲が湧くように食器や盛りつけなどにも工夫を凝らしています。献立は、在庫の食材を使いながら利用者の要望を反映しています。誕生会や行事食、時にはおやつを買ってくるなど多彩な食事内容になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある利用者もいるため水分量が確保できるよう、水分表を使用している。利用者の状況に合わせて食材の大きさや硬さを考えながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの見守りを行い、不足部分の介助も行っている。痛みや異常のある時は速やかに歯科医師に連絡し対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表を使用する事により1人1人のパターンを把握し失禁がなくなるよう個別にトイレ誘導や声掛けトイレでの排泄を支援している。特別な理由がないときはオムツを使用せず下着で過ごせるよう取り組んでいる。	布下着の着用やトイレでの排泄を基本として支援しています。利用者の意向を踏まえ、羞恥心に配慮して自力排泄への見守り、衛生用品の活用、ベッド上での支援等を行い、失敗の軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取量に気を付け支援している。なるべく下剤に頼らないよう運動をしたり自然排便に繋がるよう支援している。腹圧や肛門マッサージなど個別の対応を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	基本的には夜間浴としているが、曜日、時間帯は本人の希望に添った入浴を心掛けている。その時の体調によっては無理をせず清拭や足浴をしている。なるべく同性介助で入浴してもらう。	週2回以上、夜間入浴を基本として支援していますが、利用者の高齢化により日中対応も視野に入れて支援しています。要望で1人入浴やシャワー浴、状態により清拭など形態の違いはありますが、出来ない部分をサポートしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、その時の状況と体調を観察し、ゆったりとした時間を過ごしながら日中はなるべく体を動かし、夜間は入眠時間を把握し、音・光・温度に配慮し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬情に目を通し、副作用や変更があった場合には申し送りや日誌・連絡ノートに記載し日々注意点を確認している。気になることがあるときは随時主治医に相談し支持を貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の持っている力を最大限に活かし、張り合い、やりがいを持てるように観察し、マンネリ化しない様支援している。趣味・特技を生活の中に取り入れ、やりがいを持って楽しく過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度より利用者様の希望に添って外出を感染対策を含め行っている。少人数・個別対応をしているので十分に支援できるようにしている。	外出も徐々に緩和され、周辺を散歩中に飲み物を買ったり、畑の野菜の手入れ、玄関前で日光浴、外来受診時や屋外でのイベントなどで外気に触れる機会を作っています。冬も雪かきなどで外気に触れています。	職員は、今後に向け外出企画を打ち出し、コロナ禍以前の活動に戻りたいと検討を行っていますので、その実行に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は居室にあると、分からなくなってしまうことが多く、金銭管理が難しい方もいらっしゃいますが、少額金額を持っている方に関しましては、職員と共に買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様ご本人が携帯電話を持っているのでご自分で電話したり、友人や兄弟に手紙を書いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー、居室は常に整理整頓し色・光・音・湿度にも注意し、混乱や不潔につながらないように配慮している。また季節感を出すために居室の入り口には飾り付けをしている。花をプランターに入れて飾っており、くつろげ居心地よく過ごせるようにしている。	利用者の大半がリビングで過ごしており、職員は快適な場所となるよう環境整備に努めています。冬場の乾燥対策のため、廊下の上には物干しポールを設置しています。絵画や観葉植物、四季折々の飾り付けを施し、潤いある空間になるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やフロアーでは利用者同士がゆったりと出来る長椅子を置いたり、それぞれの居場所を確保できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人家族と相談の上話し合い、使い慣れた物、馴染みの物を持って来てもらい、配置を考え落ち着いて生活できるようにしている。	入り口には飾り台があり、職員は季節に応じた飾り付けをしています。程よいスペースの室内にはクローゼットを備えています。生活用品や家族写真等を持ち込み、一人ひとり趣きある居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理ではホットプレートを使用し、食卓テーブルで行っている。ホール・トイレ・浴室等には自由に安全に過ごせるように手摺が豊富についている。		